

十和田市事務事業評価シート

担当課名	総務課
------	-----

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	85	整理番号	1
基本目標	安心・安全を支える「暮らし感動・創造都市」		
施策の展開方向	生活安全の確保		
事務事業名	消防団活動の基盤整備		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	消防組織法、十和田市消防団条例
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	60
	人件費(千円)	720	720	2,160
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	1,392	1,380	11,363
うち一般財源	6	22	1,205
うち国県支出金	1,386	1,358	1,358
うち地方債			8,800
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	地域の住民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	消防団車両等を整備し、消防力を高め、地域住民の生命と財産を守る
手段 (どのようなやり方で行うのか)	小型動力ポンプ及び同積載車を購入する。又、消火水のうを購入する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	小型動力ポンプ積載車の整備・更新台数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	平成23年度から年1台ずつ更新	台	0	0	1	
	活動指標名	消火水のうの整備・更新数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	平成22年度から	基		23	42	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	小型動力ポンプ積載車の整備・更新				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	計画整備・更新台数 ÷対象台数×100	%	目標値			1
			実績値			
			達成度(%)			
	成果指標名	消火水のうの整備・更新				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	計画整備・更新台数 ÷対象台数×100	%	目標値		23	42
			実績値		23	
			達成度(%)		100%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	1
計画No	85

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		防団再編成計画を作成し、年次毎に統合実施計画を定め、部(屯所、車両)の設置基準を決め、整備を図っている。
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		消防団再編成計画に基づき、順次屯所の統合を遂行している。
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		消防団再編成計画に基づき、統合した屯所の一方の車両は廃止し、残った屯所は新たに車両を更新することにより、消防力を高め、地域住民の生命と財産を守っている。
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		消防団再編成、消防団活動の環境整備及び消防団員の処遇改善等について正副団長と協議し、今後の方向性を確認して進めているので受益の偏りはない。
現在の適性					20 / 20	改善の余地 0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

平成23年度から既設の小型動力ポンプ及び小型動力ポンプ積載車を購入し消防団車両の整備を図る。また平成22年度から山火事等の消火活動に使用する消火水のうを配備し火災に備える。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

平成23年度は小型動力ポンプ7台及び小型動力ポンプ積載車は9台の内、それぞれ1台ずつ、消火水のうは75基の内、42基を整備・更新を行う。